

# 授業ビデオ配信による上級日本語学習者支援教材

明治大学 戸村佳代 (日本語教育)  
tomura@isc.meiji.ac.jp

## 0. はじめに

インターネットの普及に伴い、ウェブを利用した日本語学習システムに関する研究・教材開発も活発に行われるようになってきている。しかしながら、これまで開発が進められてきた教材は、漢字学習・文法学習・読解などが中心になっていることが多く、しかも大学に在学している上級日本語学習者のニーズに合ったものは必ずしも多いとは言えない。

一方、大学に在学する留学生からは、「日常会話には困らないのに、大学の講義が理解できない」、「講義に耳を傾けているとノートが取れない」といった声が絶えない。専門用語に関する知識の欠如もさることながら、日本語による講義・講演で多用される表現、接続表現等による談話の展開などに不慣れなことなどによって生じている問題であると考えられる。また、編集されたテレビの教養番組等と違って、実際の講義では、言い間違いや言い淀みなどが多く含まれることも理解を妨げる要因になっていると考えられる。

このような実状から、実際の講義を生資料とした教材の開発を行いWeb上で公開することにした。教室授業での利用はもちろん、自習用教材としても利用することができる。

## 1. 教材作成の特色と作成手順

本教材「インターネットビデオ授業」は、日本語能力試験一級レベルの上級日本語学習者が日本語による講義・講演を聴く際に必要となる日本語力を育成するためのWEB教材で、以下のような特色を持つ。

教材として、実際の大学の授業・講演の映像と音声を生資料として用いる。

一般の遠隔授業等に用いられている授業のライブ配信・ストリーミング配信にはない学習ツールを、日本語学習者の利用を前提として提供する。

1～2年次生を主な対象とした教養科目のみでなく、経済学、経営学など社会科学分野の講義に焦点を当て、専門分野の学習への橋渡しとなる日本語能力育成を目指す。大学の授業・講演の内容を把握するために必要な言語要素・言語表現を、学習者に明示的に提示する。

インターネットを利用することにより、教室での対面授業ばかりでなく、自学自習も可能である。

教材資料として実際の授業・講演の映像を使うことの最大のメリットは、映像等の著作権の問題を回避することができるという点にある。従来の上級学習者用のビデオ教材にはテレビのドラマ、映画、ドキュメンタリーなどが用いられることが多かったが、これらを素材としたビデオ教材はインターネットでの配信は著作権法上不適当である。本教材においては、講義・講演者から日本語教材への利用の許可を得るとともに、掲載する授業資料についても知的所有権の侵害に該当しないよう配慮した。また、現在は、パスワードの管理により、実際の利用にはアクセス制限を設定している。

## 2. 作成教材

### 2.1. 学習の流れ

図1は、「インターネットビデオ授業」に含まれる各ビデオ学習教材ののメニューページである。クラス授業で利用する場合は担当教師が学習手順を定めることになるが、自習教材として利用する場合、学習者は、自分の好みの学習パターンに応じて、次の(a)～(f)のいずれの部分からでも自由にビデオ学習に取り組む(実際には(a)の後(b)～(e)を選択する)ことができる。

(a) 実際の授業で配付された授業資料をダウンロードする。

(b) 授業ビデオを始めから終わりまで通して見る。(聴解のためのヒント無し)

(c) あらかじめ2～3分程度に区切られたビデオクリップを一つずつ確認しながら見る。(聴解を助けるツールが利用できる)

(d) 授業の全体の構成を確認する。

(e) 授業ビデオ全体のスクリプトを見る。

(f) 授業内容の理解度を確かめるテストに取り組む。

(b)は、通常の遠隔授業などで利用されている授業映像のストリーミング配信に近い形態である。授業でパワーポイントを利用した解説が行われていた場合には、映像とスライドを同期した形で提供している。

(a) → 授業配信資料をダウンロードする  
ビデオ学習を始める前に、配布資料をダウンロードしてください。

(b) → ビデオ ▶ ビデオ全体を見る(化オウツァ7~16: 連続)(29:46) 24.45MB  
授業の映像と「ワーポイント」を同時に、授業を全部の速で見ます。(スクリプトや語句・表現のリストは見られません)

(c) → ビデオ ▶▶ ビデオのはじめから順番に見る(クリップ1~16)  
ここから授業のビデオ学習を始めます。  
それぞれのクリップには、次のようなアイコンがついています。

- スクリプト・語句 ▶ 見ているクリップのスクリプトと語句・表現のリストを同時に表示します。
- スクリプト ▶ 見ているクリップのスクリプトを表示します。
- 語句 ▶ 見ているクリップの中の語句・表現のリストを表示します。
- スライド ▶ クリップの中の説明で中で使われているスライドや、関連したスライドを表示します。
- 他のクリップ ▶ 一度見終わったあと、特に見たいクリップを選んで見直すことができます。
- 授業資料 ▶ 見ているクリップの内容に関連した授業資料を表示します。対応するスライドの数が多い場合は、一覧がここに表示されます。
- 戻る ▶ このページに戻ります。
- 戻る ▶ 一つ前のクリップに戻ります。
- 進む ▶ 次のクリップに移ります。

(d) → 授業内容 ▶▶ 授業の全体の流れを知る  
授業で使われたスライドの一覧で、授業全体の進行を知ることができます。このページから、ビデオオウツァ、スガフ、テストのページへ飛ぶこともできます。

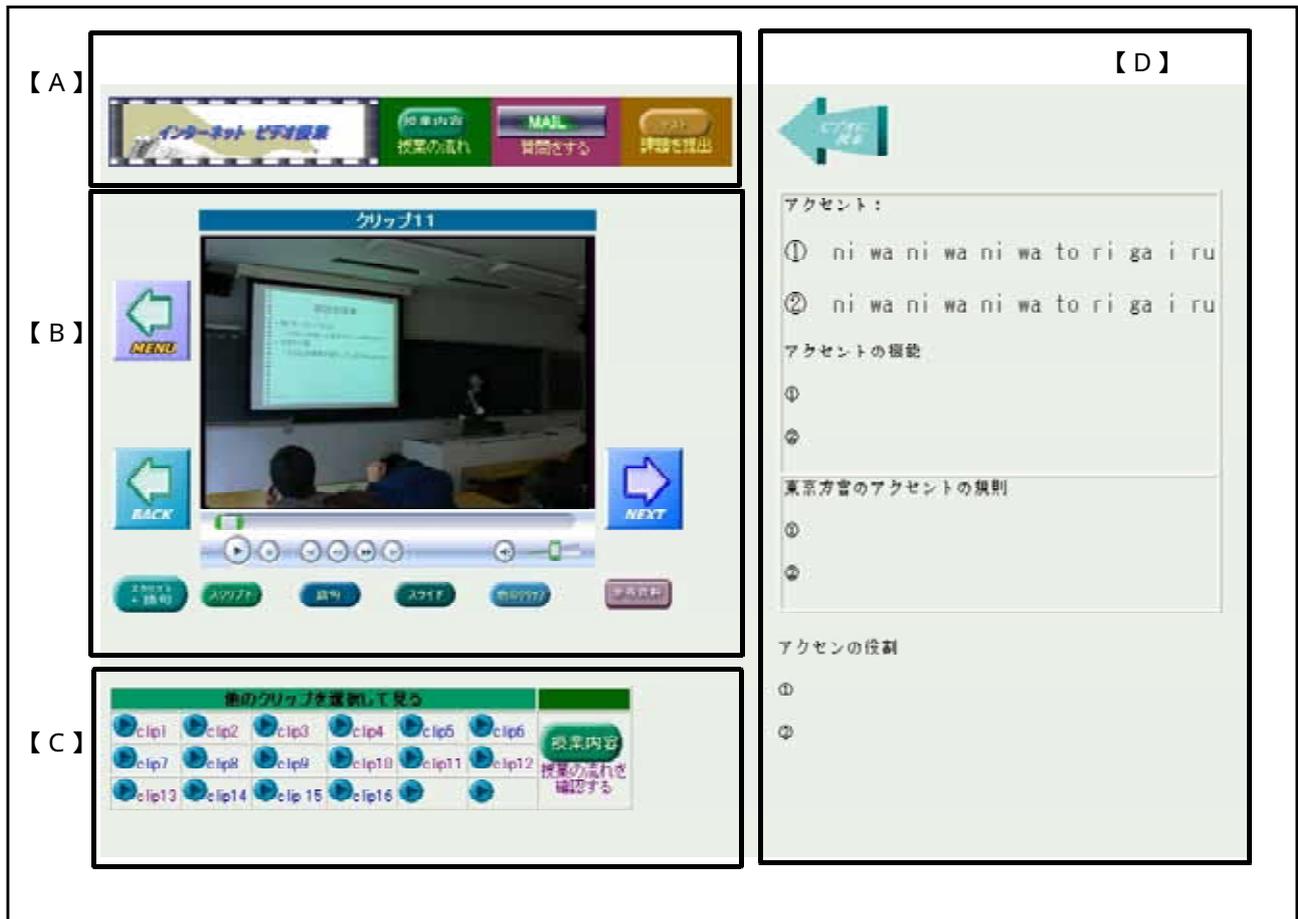
(e) → スクリプト ▶▶ ビデオ全体のスクリプトを見る  
ビデオを見終わったあと、理解を確かめるために利用してください。それぞれのビデオ画面の下についている「スクリプト」ボタンを押すと、その時見ているビデオクリップの部分のスクリプトだけが出てきます。

(f) → テスト ▶▶ 理解チェックの問題に取り組み  
このビデオには、ちがいに理解チェックテストがあります。

## 2.2. ビデオ学習ページの構成

〔 図 2 〕はWebによるビデオ学習の本体部分の画面構成の構成をしめしたものである。(2.1)で(b)を選択した場合には、これを利用して学習をすすめていくことになる。

〔 図 2 〕



画面は大きく【 A 】から【 D 】の四つの部分によって構成される。

- 【 A 】：学習サポート用ツール
- 【 B 】：動画提示スペース
- 【 C 】：動画関連情報提示スペース
- 【 D 】：授業資料提示スペース

〔 図 3 〕



【 A 】の学習サポート用ツールはビデオのどのクリップにも共通して表示される部分で、この中に ~ の三種類のリンクがある。

のリンクでは、〔 図 3 〕のような、授業の流れを確認するためのページに移動する。授業に使用されたパワーポイントのスライドを授業の進行に合わせて縦方向に順次並べたストーリー・ボードのような形式を取り、各スライド毎に説明内容の概要テーマが示してある。また、各スライドには対応するクリップの番号とクリップの長さ（時間）を表示し、クリップと、それに対応するスクリプト（音声部分をの文字化した

もの)へのリンクボタンをレイアウトした。

学習者は、このページを適宜利用することによって、その時見ているビデオクリップの内容が授業全体の中でどのような位置付けになっているのかを確認することができる。また、理解チェック用のテストがどこに配置されているかという情報も得られる。学習の途中でこのページを参照した後、元のビデオクリップの映像に戻ることはもちろん、必要に応じて任意のクリップやスクリプトを参照することができる。

からリンクされているページでは、教師に対して質問を送ることができる。Web上のフォームに記入する形式をとっているため、自分専用にメールソフトの設定が行われていない共用のPCを使って学習する場合でも利用することができる。また、〔図2〕の のリンクボタンからは、授業の内容理解チェックを行うテストのページに移動することができる。問題の出題形式には、多肢選択型、穴埋め型、記述型の三種類があり、教師が一般的なウェブページ作成ソフトを使って自由に編集できるフォーマットを用意した。

【B】の動画提示スペースに並ぶ中のタブレット型のアイコンのリンク先は全て【C】の動画関連情報提示スペースに表示される。ここに表示される内容はビデオ聴解を補助するための情報で、視聴中のクリップに対応するスクリプト、語彙・表現のリスト、パワーポイントのスライド等、一般の日本語のクラス授業であれば学習者に紙媒体で事前・事後に配付されるはずの情報である。また、学習者の便宜を図るため、授業ビデオの他のクリップを参照することもできるようにした。

このうち、「語彙・表現」には、専門用語の他に接続詞や談話展開機能をもつ表現などを注目すべき言語要素として取り上げ、講義・講演の聴解に慣れさせるようにした。

【D】の授業資料提示スペースには、〔図2〕に例示されるように、実際の授業で配付された資料のうち視聴中のクリップに関連した部分を提示する。また学習者が利用するディスプレイが小さく【A】～【D】の画面を同時に表示できない場合には、(i)動画表示スペースのみの表示、(ii)授業資料提示スペースを中心にした表示、の二種類の表示パターンを切り替えるためのボタン(〔図3〕の )を用意してある。(ii)の表示パターンの場合、動画表示画面が隠れていても音声は聴くことができる。

### 3. 作成Web教材のこれからの活用と展望

以上、インターネットを利用したストリーミング配信によるビデオ教材の概要を見てきた。日本語学校等で1～2年に渡って日本語学習を続け日本語能力試験1級合格レベルに達した学生であっても、大学入学当初は授業でのノートテキングはおろか授業内容の理解そのものがおぼつかない例が多く見られる。また、海外から交換留学等で短期に留学してくる学生などは、日本語学習用に整形された日本語以外のナチュラルスピードの日本語に触れる機会の絶対量が不足しているケースが多く、来日してすぐに一般の大学の講義内容を把握することが極めて困難である。これらの学生の日本語学習支援に本教材の利用は有効に機能するものと信じる。

本研究で作成した日本語学習教材は、「留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ」(<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~japedu/>)で試用のための限定的な公開をしている。今後は、授業コンテンツの種類を拡充していくと共に、談話展開機能を持つ言語要素についての分析を進めながら試用を重ね、有効な学習ツールとなるよう改訂作業を進めていきたい。

### 参考文献

- 新井高子、赤堀侃司、他(1998)「釣りバカ日誌 を使ったマルチメディア日本語教育教材の開発と評価」『日本教育工学会研究報告集』pp.49-56
- 産業能率短期大学日本語教育研究室(編)(1988)『講義を聞く技術』産業能率大学出版部
- 先進学習基盤協議会(編著)(2003)『eラーニング白書2003/2004年版』オーム社
- 日本語教育学会マルチメディア研究委員会(1998)『マルチメディア日本語教材に関する調査研究 - 報告書 - 』文化庁文化教育部国語課
- 藤原雅憲、初山洋介(編)(1997)『上級日本語教育の方法 - - さまざまなアプローチ - - 』凡人社
- 文部科学省メディア教育開発センター(編)(2001)『教育メディア科学』オーム社
- Lee, W. & Owens, D. (2000) *Multimedia-Based Instructional Design: Computer-Based Training, Web-Based Training, Distance Broadcast Training*. US: Pfeiffer.